

新しいまちの伝統を 創る喜び

若葉台地区まちづくり協議会



副会長
下地 正之 さん
Msasayuki Shimoji

会長
中林 興太郎 さん
Koutarou Nakabayashi



昨年のWAKABADAIイルミネーション

若葉台の新しい催し

2010年のクリスマスマズンゾーン、若葉台地区公民館の敷地にイルミネーションが鮮やかに輝きました。これは、若葉台地区まちづくり協議会が中心となり、若葉台を活気のある元気なまちにしようと昨年初めて実施したもので、「WAKABADAIイルミネーション」といいます。期間中は、地区内外から約1000人の見物客が訪れ、会場は大変にぎわいました。会長の中林さんをはじめと

する若葉台地区まちづくり協議会は、平成9年に生まれた地区の自治会が、鳥取市の協働のまちづくり推進計画の一環として、平成20年に組織化されたものです。「魅力ある住みよいまちづくり」をめざして、子どもからお年寄りまで一緒に参加できるイベントの実施が主な活動です。このイルミネーションは、人と人との垣根を取り払い、一体となって実現した若葉台というまちの象徴です。

新興住宅地特有の課題

若葉台地区は、平成の歴史とともに歩んできた新興住宅地。緑がとて豊かなまちで、国土交通省の都市景観100選に選ばれています。「緑豊かなところがいちばんの財産」と、中林さんは胸を張ります。副会長の下地さんは、「この緑豊かで安全な環境が子育てには最適」と、この地に住むことを決めました。しかし、まちが若いからこそ抱えている悩みがあります。それは、地区外から移住した人が大半であるが故に、自分が生まれ育った場所とい

うふるさと意識を持った人が少ないということ。見ず知らずの人の集まりであることから、どうしても横の連携が取りにくくなります。

子どもたちに思い出を

まちに伝統とふるさと意識を定着させようと、中林さんらは自治会ができた当初から熱心に活動が続けてきました。ふるさと意識は、子どもたちに根づいてこそ広がるもの。思い出に残るイベントを数多く考えてきました。地区運動会に始まり、肝だめし

《12月の番組ガイド》

.....鳥取市行政番組.....

『こんにちは鳥取市です』【放送】毎週金・土

鳥取市の施策や事業の取り組み状況、各種行事、お知らせを紹介します。

【話題・特集】

- ▷鳥取市政十大ニュース
- ▷鳥取砂丘イリュージョン区
- ▷鳥取市教育フォーラム
- ▷市民活動フェスタ in とっとり



昨年の
『鳥取砂丘イリュージョン』

静止画文字情報

『鳥取市からのお知らせ』【放送】毎週水・木・金・土



イベント・募集・相談などの各種お知らせを、文字画面と音声でご案内します。

いなばぴよんぴよんネット

自主制作番組

農業番組『いなばアグリタイム』【放送】毎週水・木

二十世紀梨のせん定など、来年の収穫に向けた農作業の様子や、正月の準備に忙しい農村の話題などをお送りします。

地域情報番組『とっとりウオーキング』【放送】毎週日・月

市内各地の正月準備の様子や、取材映像で今年1年を振り返ります。

生活情報番組『ぴよんぴよんワイド』【放送】毎週火

子育てや健康をテーマに、暮らしに役立つ情報や話題をお届けします。

手話番組『手話でコミュニケーション』【放送】毎週日・月

ニュースや話題、行事、お知らせを手話や字幕で紹介いたします。

※番組の放送時間や内容はホームページまたはデジタル放送の電子番組表（EPG）をご覧ください。

「デジアナ変換」サービス実施中

ケーブルテレビ局では地上デジタル放送をアナログ方式に変換して各家庭にお届けする「デジアナ」変換サービスを実施しています。ケーブルテレビに加入されていれば地上デジタル放送終了後もアナログテレビのまま地上放送が視聴いただけます。詳しくは、ご加入のケーブルテレビ局にお問い合わせ下さい。

情報をお寄せください！

いなばぴよんぴよんネット ☎ 0857-22-6111

※放送予定は予告なく変更することがあります。
番組の放送時間は、ホームページでも紹介しています。
<http://www.inabapyonpyon.net>



地域の人たちとのかんざし作り

「恒例行事の上には何を積み上げるか」。小林さんは、これがまちづくり協議会の役割と語ります。「文化がないなら創り上げる」という精神で、WAKA

やみかんの収穫祭など、今でも続く恒例行事となっていています。当時の子どもは成長して大人になりましたが、昔の思い出を今もはつきりと覚えています。

見られることで伝統に

イベント実施の過程では、子どもから大人まで、また、大学や地区内の各団体も関わりました。企画運営は自主的に参加したボランティアが行い、デザインは大学や各団体から募集。一方、子どもたちは会場に飾るかんざし作りには、地区内で集めた廃油を活用。環境への配慮も学びました。かんざし作りを手伝う

ABADA Iイリュージョンは誕生しました。

地区の大人たちと子どもたちとの交流も深まりました。子どもたちはイルミネーションを楽しみながら自分たちの作ったかんざしを観察。淡い光とイルミネーションのコントラストに、どんなことを感じたのでしょうか。

WAKA Iイリュージョンは、今年も12月18日（日）から25日（日）までの8日間行われます。規模は昨年を上回るものにする予定です。昨年好評だったミニコンサートは、23日（金）に実施。「多くのの人たちに見られることでまちの伝統になる」と、小林さんは確信しています。「きつと満足してもらえると、下地さんも自信をのぞかせました。この自信は、若葉台への愛着と、そこに暮らす人の惜しみない協力があるからこそ生まれるものです。」